

NPO団体紹介 part1

●コミュニティ放送局 FMわいわい ●ワールドキッズコミュニティ ●特別非営利活動法人 多言語センターFACIL ●AMARC日本協議会

設立日

1999年 6月 多言語センターFACIL 団体設立
2006年 8月 法人格取得
2007年 4月 多文化 Pro³ グループ結成

事業費

8000万円 (2009年度)

構成メンバー

●常勤スタッフ 7人 ●非常勤スタッフ 6人
●緊急雇用スタッフ 7人
●ボランティア 1000～2000人 ※登録者数

information

〒653-0052
神戸市長田区海運町3-3-8
たかとりコミュニティセンター内
TEL: 078-736-3040 (FACIL)
FAX: 078-737-3187 (共通)
EMAIL: facil@tcc117.org (FACIL)
URL: <http://www.tcc117.org/pro-cube/>

団体概要

「翻訳・通訳から多言語 WEB・DTP、外国語音声制作、FM 放送まで...多文化でまちを楽しく！」のミッションをかけて活動してきた4団体（コミュニティ放送局 FMわいわい、多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティなど）が、2007年4月、ひとつのグループになりました。グループ名は「多文化 Pro³（プロキューブ）」。「Pro³」とは、プログレッシブ（革新）・プロデュース（創造）・プロフェッショナル（専門に徹した）の相乗作用を意味しています。



多文化 Pro³ グループの建物入口



水にぬれても大丈夫な防災カード



取材後はインドへ出張される予定



相談にのる吉富さん

多文化Pro³ グループ



多文化Pro³グループ 代表

Yoshitomi Shizuyo

吉富 志津代氏

「たった一人のためにしたことでも、それがみんなのためになる。」

— 設立経緯を教えてください。

阪神淡路大震災がきっかけです。国籍・民族・言語の違いも関係なく、みんなが被災者になった。でも、困っている内容はそれぞれ違う。

私は、震災前に領事館の職員だったこともあり、以前から相談を受けたり情報提供を行ったりしていました。震災時もその延長線上で支援をし、それが震災時だけではなく日常的にも必要なことであると思いました。

まず、多言語のコミュニティラジオ局FMわいわいが開局し、その後、多言語センターFACILを立ち上げました。それと同時に、外国出身の子どもの活動を行うワールドキッズコミュニティも立ち上げました。

— 吉富さんは震災の時にこの辺り（神戸市長田区）に住まれていたのですか？

私は震災当時、北区に住んでいましたが、93年にカトリックたかとり教会と知り合いになりました。子どもたちがサークスをして暮らしている「ベンボスタ子ども共和国」という共同体がスペインにあります。その神戸公演の際にこの地域と教会が受け入れをし、私はその時に通訳ボランティアをしたんです。

翌年、神戸の領事館が大阪に移転したのをきっかけに仕事を辞めました。それから年が明けて、地震があった。だから、たまたま仕事がなく手伝いに行けました。ここは「たかとり救援基地」として、教会が地域に提供してくれた場所です。すぐに救援物資や医療チームが来て、ボランティア基地になった。サークスのときにかかわっていたボランティアもたくさん来っていました。その中からさまざまなグループができ、団体となり、現在はそのうちの4団体が多文化Pro³グループとなりました。

— なぜ、多言語センターFACILを法人にしたのですか？

ずっと任意団体で仕事をしてきたので、法人ではなくてもよかった。でも事業費が増えていき、代表者個人の責任だけでは荷が重くなってきました。法人にすれば役員全員の運営責任になるし、法人対象の助成金にも申請できるので取得しました。法人格を取ったのも遅く、2006年です。

— 具体的な活動内容を教えてください。

日常的な多言語情報の分野の翻訳／通訳に対価をつけ、多言語環境を促進することです。翻訳は日本語から外国語にすることが多く、ネイティブの人が活躍できます。それをIT部門がデザインしてWEBや印刷物にまです

NPO法人 多言語センターFACIL 理事長

ワールドキッズコミュニティ 代表

FMわいわい 多言語番組プロデューサー

NPO法人 たかとりコミュニティセンター 常務理事

ることができます。そのひとつが、水にぬれても大丈夫な防災カード。日本語も含めて7言語あります。企画、翻訳、デザイン、印刷のすべてを手がけました。

他には、食のビジネスもしています。例えば、「あなたのおうちに世界のシェフが行きますよ」っていう、デリバリー。このような多言語・多文化事業は、全国から仕事をいただきます。

— この地域は外国人の方が多いですか？

少なくはないです。日本での外国人登録者数は、全国で約221万人を超え、兵庫県だと10万人。でも日本国籍を取得した人たちは数に含まれない。また、父・母のどちらかが日本人の場合は国籍が日本であってもふたつの文化の影響を受けているから、誰を「外国人」と考えるのかは難しいです。外国人登録者数の多さでいえば、兵庫県は全国で10位以内に入っています。神戸市の中央区と長田区は人口の10%と多いです。でも多いからしなくてはいけないとか、少ないからしなくていいというわけではない。少なくとも困っている人たちはいるから。

— そうですね。

たった一人のためにしたことでも、それがみんなのためになることがある。ユニバーサルデザインというのがその考え方です。私たちは情報を翻訳／通訳をするときに、必ずやさしくわかりやすい日本語にして、日本語を学んでいる人にも理解できるようにしています。共通語としてのやさしい日本語です。例えば、介護保険をやさしい日本語で説明したものをおばあちゃんが見て「これ、わかりやすい」って言うわけ。

私たちがそういうものだと思って気づかないことが、ちょっと違う視点にすると「あ、もっとよくなった」ってなる。そういう意味で、マイノリティで暮らしている人の視点を大事にしています。

— 活動の問題点や課題はありますか？

私たちの目的は、もっと成熟した民主的な社会にすることなので、しないといけないことはたくさんある。どんな人にとっても100%の社会なんて絶対にあり得ない。けれど、みんなが少しづつ知恵を出し合い、改善していくプロセスが大事。みんなに、そのプロセスにかかわってほしい、気付いてほしい。多様性が豊かであることや、少数者の意見も大事だということを、もっと世の中に広げたい。民主主義の中に多文化の視点が入ったらもっと豊かになると思うから。

多文化Pro³グループ

